



地理的な見方・考え方を働かせる 発問とデジタルコンテンツの活用法 —「世界各地の人々の生活と環境」を事例に—

東京都 東京学芸大学附属小金井中学校 教諭 泉宮 一喜

1 はじめに

「見えないものを見えるようにする」。これは本校の社会科のテーマである。普段何気なく見ている景色の背景にはさまざまな地理的、歴史的、文化的な要因が隠されている。社会科の授業を通して、そのことに気づき、多面的・多角的な視点で現代社会をとらえられる生徒を育成していきたい。そのため、社会科の教員としては生徒が社会的事象の「見方・考え方」を働かせるようにすることが重要なポイントである。しかし、どのように日頃の授業の中で具体的な発問に落とし込み、生徒の学習活動にいかしていけばよいか、悩んでいる教員は多いように思う。とりわけ「地理的な見方・考え方」の扱いについてはその傾向が顕著であると感じる。

本稿では第1学年地理的分野「世界各地の人々の生活と環境」の単位について取り扱う。本単元は、世界や日本の諸地域学習の前段階として、地理的な見方・考え方の基礎を養ううえでとても重要な単元である。「雨温図の読み取り方」や「写真の読み取り方」というような「地理的な見方」を理解させることはもちろん、「なぜ、そのような景観が見られるのか」、「なぜ、その地域の人々はそのような生活をしているのか」といった「地理的な考え方」を生徒が働かせるために、生徒の興味・関心を引き出しながら丁寧に指導計画を作成して指導していきたいところである。さらに、近年では一人一台端末

が急速に普及したことで、生徒自身が画像や動画資料などにアクセスしやすくなった。

これらを踏まえ、本稿では、上記単元における「地理的な見方・考え方」を働かせる発問や学習活動を示すとともに、教科書のQRコンテンツやデジタル教科書・教材、帝国書院ウェブサイトに掲載されている写真資料などのいかし方について述べていく。

2 雨温図の読み取り方—QRコンテンツの活用法—

地理的分野の学習において、雨温図の読み取り方の理解でつまづくことは絶対に避けたい。「世界各地の人々の生活と環境」の単位においては最初に身に付けさせたいスキルである。スライド画面で教室前方に雨温図を提示して、丁寧に読み取り方を説明する必要があるだろう。一方で、多くの生徒は数日もすれば雨温図の読み取り方を忘れてしまうことも想定される。そこで、『社会科 中学生の地理』（以下、教科書）のQRコンテンツを活用したい。教科書p.29中央に掲載されているQRコード（QR1）を読み取る

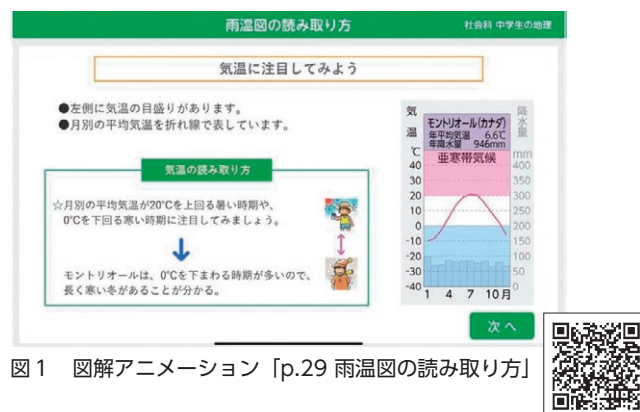


図1 図解アニメーション「p.29 雨温図の読み取り方」

QR1

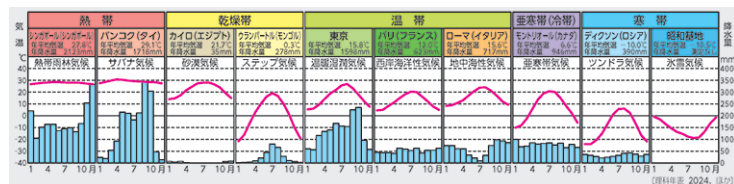


図2 『社会科 中学生の地理』 p.29 「さまざまな気候帯の雨温図」

と、容易に図1のような画面にアクセスできる。

この画面では、アニメーション付きで雨温図について解説しているため、生徒がいつでも復習できるようになっている。例えば、日頃のワークシートにもQRコードを挿入しておけば生徒は復習時にいつでもQRコンテンツにアクセスして学んだことを確認できるであろう。もちろん、教師の説明時に活用することも可能だ。

実際の授業では雨温図の読み取り方を理解させた後、教科書p.29に掲載されている世界各地のさまざまな雨温図をワークシートやスライド画面にて提示する(図2)。その際、必ず自分たちが住んでいる地域に近い雨温図も併せて用意する。そのうえで、次のような問いを投げかける。

発問：「図2の各雨温図の地域では、それぞれどのような景色が見られるだろうか？」

生徒は雨温図を見ながら、各地域で見られる景観を予想していく。自分たちの地域に近い雨温図を示すことで、生徒たちはおのずと自分たちの地域と比較しながら景観を予想するだろう。

また、上記の雨温図の都市の位置を確認することはもちろん、熱帯から寒帯まで5つの気候帯がどのように分布しているかについても分布図からとらえさせたい。その際もQRコンテンツが活用できる。教科書p.29左上に掲載され

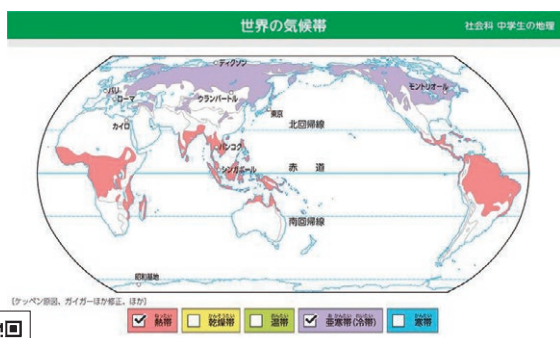


図3 図解アニメーション「p.29 世界の気候帯」

ているQRコード(QR2)を開くと各気候帯がレイヤーごとに着色されるようになっている(図3)。生徒自身が手元の端末で作業することによって、気候の分布の法則性に気付く。このように、できるだけ第1時では生徒の作業を優先し、用語を無理に暗記させないように留意したいところである。第1時のワークシート例は次ページにて掲載する(図6)。

3

写真資料の読み取り方①－ケッペンとはどのように気候を区分したのだろうか？－

第2時では、前時で予想させた内容をいかし、写真資料から情報を読み取るときの「地理的な見方(視点)」を理解させたい。令和7年度版帝国書院教科書からは指導書に「指導者用デジタル教科書・教材」が組み込まれ、この中には、「写真で発見！世界の気候」という新しいコンテンツが加わった(図4)。これをスライド画面などに映して生徒に提示することができる。



図4 『社会科 中学生の地理』 デジタル教科書・教材「写真で発見！世界の気候」

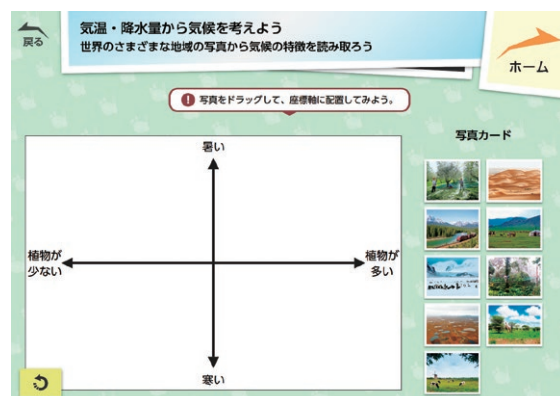


図5 『社会科 中学生の地理』 デジタル教科書・教材「写真で発見！世界の気候 気温・降水量から気候を考えよう」

QR2

11 雨温図と世界の気候区分

教科書 p.28～29
地図帳 p.17～18

組 番 氏名

ねらい：①世界の気候帯はさらに、細かく分けられることを理解しよう。
②世界の気候帯がどのような傾向で分布しているかを自分の言葉で説明しよう。



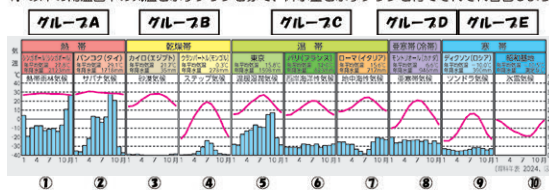
- 「東京」のグラフをみて、折れ線グラフを赤で、棒グラフを青で着色しましょう。
- 折れ線グラフは何を表していますか？ ()
- 棒グラフは何を表していますか？ ()
- 東京は、何月の気温が一番高いですか？ ()
- 東京は、何月の気温が一番低いですか？ ()
- 一年間の平均気温は、何度ですか？ ()
- 一年間の年降水量は、何mmですか？ ()
- 左上のようなグラフを何と言いますか？ ()

★これから世界の気候を見ていく上で、東京の雨温図を覚えておくとう便利です！！

東京の雨温図：年平均気温（約 度）、年降水量（約 mm）

世界の雨温図と気候区分

1. 以下の雨温図中の気温を示すグラフを赤で、降水量を示すグラフを青でそれぞれ着色しよう。



2. 左下の雨温図を見ると、それぞれどんな気候ですか？それぞれ簡単に説明しよう。

G	番号	どのような気候だと考えるか？（1行 or 2行程度で）	気候の名称
A	①		熱帯雨林気候
	②		サバナ気候
B	③		砂漠気候
	④		ステップ気候
C	⑤		温暖湿潤気候
	⑥		西岸海洋性気候
	⑦		地中海性気候
D	⑧		亜寒帯気候
E	⑨		ツンドラ気候
	⑩		氷雪気候

3. 以下の資料から、気候がどんな傾向で分布しているかを自分の言葉で説明しよう。



図6 世界各地の人々の生活と環境 第1時のワークシート（令和7年度版教科書の活用を想定した例）

さらに、「学習者用デジタル教科書・教材」があれば、生徒個人あるいはグループで写真を座標軸に分類させ、各地域の気候の特色を考察させる活動が可能である（図5）。生徒が主体的に活動し、グループワークを用いて他者とも協働的に学び合うことで、思考を深めることができる。最後にグループごとにまとめた座標軸を全体で共有し、模範解答を提示する。ある程度、各気候の特徴について理解できたところで、以下の発問をする。

発問：「ケッペンはどういうようにして気候を区分したのだろうか？」

中学校の地理的分野で取り扱われている気候区分はケッペンの気候区分である。植物学者でもあるケッペンは「植生」から世界の気候を区分した。生徒からは、「気温ではないか」、「いや降水量ではないか」などの意見が出ると想定されるが、ケッペンが「植生」から気候を区分したことを知ると、写真資料の「地理的な見方（視点）」を理解できるようになる。つまり、今後、写真資料を見る際は「植生」の様子から観

察するようになるだろう。ケッペンという人物名を暗記させる必要はないが、ケッペンが気候を区分した「見方（視点）」を生徒たちが理解することで、今後、地理学者になったような気持ちで写真資料を読み取ることができるようになる。

4

写真資料の読み取り方②－「地理的な見方・考え方」を働かせる発問事例－

第3時以降では、「暑い地域」、「寒い地域」などの具体的な地域を取り上げて、人々の生活の様子を考察させたい。前時までの学習で雨温図から地域の景観をある程度予測することができるようになったと考えられるが、実際の人々の生活の様子は写真や動画資料を見なければ理解することはできない。教科書にも各地域に関するさまざまな写真が掲載されているため、これらの写真を活用したい。さらに、帝国書院ウェブサイト内の「動画・写真ライブラリー」（QR3）には、さまざまな国や地域の景観写真、動画が豊富に掲載されている＊（写真資料①・②）。これらを活用することで、同じ国で

＊会員登録（無料）を行うと、高解像度のデータをダウンロードできる。



QR3



写真資料①「市場の様子」(インドネシア)



写真資料②「都市部の様子」(インドネシア)

例1)

先生「写真資料①からインドネシアの人々はどのような服装をしていますか？」

生徒「女性は長袖で、頭にスカーフのようなものを巻いている」(地理的な見方)

先生「なぜ、インドネシアの人々はそのような服装をしているのですか？」

生徒「宗教が関係しているのではないだろうか」(地理的な考え方)

例2)

先生「写真資料②からインドネシアの都市部ではどのような景観が見られますか？」

生徒「高層ビルが立ち並んでいる。また、車の渋滞が起きている」(地理的な見方)

先生「景観写真からインドネシアのジャカルタはどのような地域だといえますか？」

生徒「発展していて、人口が集中している。日本の都市部と同じような感じだ」(地理的な考え方)

あっても地域によって景観が異なること、世界の人々の生活は自然的条件のみに影響を受けるのではなく、社会的条件(宗教、文化、他地域との関わりなど)にも影響されていることをとらえることができる。

上記の例1・2のように、写真資料を見せる際は、「地理的な見方」から「地理的な考え方」に発展できるような発問を繰り返し教師側が主

導して生徒に投げかける。この作業を繰り返すことで、生徒は「地理的な見方・考え方」を働かせることができるようになり、今後の地理的分野の学習におおいに役立つ。

なお、最初は「暑い地域」と「寒い地域」など、対照的な気候の地域を教師主導で取り扱い、残りの「乾燥した地域」、「温暖な地域」、「高地」に暮らす人々の生活については、生徒自身に調べさせ、まとめさせる学習活動も有効な方法である。まとめる際は、これまでの学習で身に付けた「地理的な見方・考え方」を働かせられるよう調査方法やまとめ方を工夫させたい。

5

終わりに

本稿では、「地理的な見方・考え方」を働かせる発問とQRコンテンツなどデジタルコンテンツの活用法について取り上げた。

「地理的な見方・考え方」については、学習指導要領に掲載されている「位置や分布」、「場所」、「人間と自然環境との相互依存関係」、「空間的相互依存作用」、「地域」などの細かな視点は本稿では取り上げなかった。まずは教師自身がどのように地域を見るか(見方)、そして、それらをどのように考察していくか(考え方)を考え、日頃の授業の中で意識していくことが大切であろう。

また、デジタルコンテンツの活用について、令和7年度改訂の教科書採択にあたってはICTの活用が焦点の一つになったことから全国的な注目度の高さがうかがい知れる。ICT活用についてはいまだ試行錯誤の段階であるように思うが、効果的に活用することで生徒の学習の幅が広がる可能性を秘めている。全国の教員がデジタルコンテンツを当たり前のように使うことで教科としての学びの質のさらなる向上を期待したい。